



釣り糸が嘴(くちばし)に絡まって、嘴が開くことができなくて餌を採れなくなったクロツラヘラサギ。その後不明です。
2012.3.17 鹿児島県・錦江湾奥部 photo:Keiko Miyano

クロツラヘラサギの ケガや事故死が起きている。



釣り糸と浮きが両脚に絡まって、脚が腫れてしまったクロツラヘラサギ。保護され回復後に放鳥されました。

2014.4.14 沖縄県・泡瀬干潟 photo:Masakuni Yamashiro



クロツラヘラサギの九州や沖縄の生息地は人の暮らしに近い場所が多いので、人が原因の事故にあう危険も多くなります。毎年、各地から数羽の悲しい被害が報告されています。

最も多い事故は河川に捨てられた釣り針や釣り糸によるものです。釣り針が嘴(くちばし)に刺さったり糸が絡まったりすると、クロツラヘラサギの習性で嘴を振って外そうとするので、ますます糸が絡まって嘴が開かなくなり、餌を採れなくなって衰弱死してしまいます。釣り糸が脚に絡まると、血が通わなくなった部分が壊死したり、羽根に絡まった場合には飛べなくなってしまうので移動ができなくなります。

川の中の大きなごみ(自転車、タイヤ、ブロックなど)にぶつかって嘴が折れたり、脚が折れたりすることもあります。

けがをした個体は人が近づくと逃げるので、弱るのを待って捕獲することが多いのですが、衰弱していて、治療をしても手遅れになる場合が多いのです。



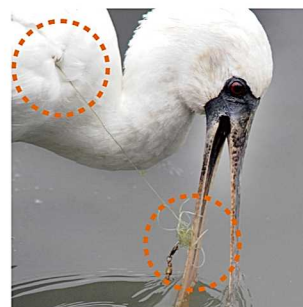
右の脚が折れています。大きなごみ、または電線などにぶつかったようです。この後不明です。

2008.2.6 鹿児島県・錦江湾奥部 photo:Keiko Miyano



くちばしが折れています。川の中の大きなゴミなどにぶつかったようです。この後、残念ながら死亡しました。

2007.3.20 福岡市・多々良川河口 photo:Hiroto Okabe



2012.3.5

沖縄県・与根三角池

photo:Hiroaki Yamashiro



釣り糸やごみを捨てないで、 マナーを守って持ち帰りましょう。

釣り糸や釣り針、ルアーは捨てない。

切れてしまった糸やルアーなどは可能な限り放置しないで責任を持って持ち帰りましょう。釣り針が残ったままの魚の放置も危険です。

他の人が捨てた釣り糸や釣り具などを見つけた場合も同じように持ち帰るようにしましょう。

ごみは捨てない。

野鳥はコンビニ弁当やビニール袋、ペットボトルなどの破片などをエサと間違えて食べてしまうことがあります。また、タイヤや自転車、家電などの大型のごみに不用意にぶつかってけがをすることがあります。ルールを守って決してごみを河川や海岸、干潟などに捨てないでください。

河川や干潟の清掃を行う。

地域、行政などの協力も得ながら、釣り糸やごみを河川に捨てない啓発活動や清掃作業など、みんなで協力して、クロツラヘラサギや多くの水辺の鳥たちを守りましょう。

早く保護できれば自然に戻せます。

けがをしたクロツラヘラサギを早く見つけて保護することが出来れば、治療の後の回復も早く再び自然に戻すことが出来ます。



K96の脚環が着けられたクロツラヘラサギは、嘴と羽根に釣り糸が絡まってしまいました(写真左)。でも発見、救護と手当てが早く、4日後に回復して元気に放鳥されました(写真右)。

2012.3.14

沖縄県・与根三角池

photo:Hiroaki Yamashiro